

令和7年5月9日(金)

50th
ANNIVERSARY



昨日と本日の二日間にわたり、緑の募金を実施しました。JRC委員会の生徒たちが、登校時に昇降口で募金の呼びかけを行ってくれました。登校してきた生徒たちは、「持ってきたよ～」と明るい声で駆け寄り、募金に協力していました。募金をする、緑の羽根をもらえます。ある生徒は、「この羽根をコレクションにしているんです」と言っていました。私も、募金に協力しました。JRC委員の生徒は、「ありがとうございます！」と笑顔で感謝を伝えてくれました。



緑の募金は、昭和25年に「緑の羽根募金」として始まり、平成7年に「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」が制定され、その第2条第2項に「緑の募金」として規定されました。この募金は、植樹や間伐など国内の森林整備のほか、震災で被災した方々への支援、未来の担い手である子どもたちへの森林環境教育、また海外の緑化支援等にも使われています。

3年生が国語で文法の学習をしていました。黒板には、「弟は走って先に出かけた姉を追いかけた。」と書かれています。この文章は、二通りの解釈が可能です。走っているのは弟なのか、それとも姉なのか、ということです。この問題を解決するためには、主述を明確にするために、正しい位置に句点を打てばよいことになります。「弟は走って、先に出かけた姉を追いかけた。」とすれば、走っているのは弟です。また、「弟は、走って先に出かけた姉を追いかけた。」とすれば、走っているのは姉になります。本時は、主述の関係に着目して、文章表現を推敲することを学びました。



グラウンドからは、大縄を練習する生徒の声が響いてきます。今年の1年生は上達するスピードが早いです。体育教師が盛り上げ上手なので、生徒たちは益々やる気を出して、練習に打ち込んでいます。上級生を追い越してしまう勢いで、数を延ばしています。団体競技は、仲間の気持ちが一つになると、どんどん良い方向に進んでいきます。成功体験が増え、それが自信につながります。しかし、練習は始まったばかり。この先、伸び悩む時期も訪れると思います。



それをどう乗り越えるか試行錯誤したり、ぶつかりあったりすることも、大切な経験です。クラスの数だけ、様々なドラマが生まれることでしょう。